

管内経済情勢報告

仕事の窓

財務部

BUSINESS REPORT 1

観光が増勢を強めていること
などから、全体としては緩やかに回復している。



【ポイント】

設備投資は減少見通しとなっているものの、観光は増勢を強めており、個人消費は順調に推移しているほか、生産活動は一部に持ち直しの動きがみられ、企業収益は増益見込みとなっている。
先行きについても、緩やかな回復が続くものと見込まれる。

POINT

主要項目の動向

個人消費《順調に推移》

個人消費をみると、百貨店は、夏物衣料が好調に推移したことから前年を上回っている。主要スーパーは、新規出店効果や天候に恵まれたこともあり、前年を上回っているほか、コンビニエンスストアも前年を上回っている。
耐久消費財の動向をみると、家電販売は、前年の新規出店の反動等から前年を下回っている。新車販売は軽自動車

観光《増勢を強めている》

観光を観光入込客数でみると、沖縄ブームが続いていることから、三月以降六ヶ月連続で単月ベースの過去最高を記録し、増加率も拡大している。
主要ホテルの客室稼働率、客室単価はともに前年を上回っている。
このように観光は引き続き好調に推移し、更に増勢を強めている。
先行きについては、修学旅行のシーズンを迎え予約状況が好調なこと、引き続き好調に推移するものと見込まれる。

雇用情勢《改善の動き続く》

雇用情勢をみると、有効求人倍率にやや減少がみられるものの、新規求人数、県外からの受求人数、就業者数は増加しており、改善の動きが続いている。



総括判断

持ち直してきている	17年7月
緩やかに回復している	17年10月
(基調は横ばい)	前回との比較

主要項目の動向

住宅建設

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲のいずれも前年を上回っており、持ち直している。

設備投資

十七年度の設備投資計画額を前年同期比でみると、全産業では十四・一％の減少と前年度を下回る見通しとなっている。

公共事業

公共事業の動向を公共工事前払金保証請負額(累計)でみると、前年を上回っている。なお、今年度の公共事業予算は前年度を下回っている。

生産活動

生産活動をみると、食料品では、食肉加工品などが前年を下回っている

ものの、嗜好飲料は持ち直してきている。
窯業・土石では、工事の動き出しなどから下げ止りつつある。
このように、生産活動は前年を下回っているものの、一部に持ち直しの動きがみられる。

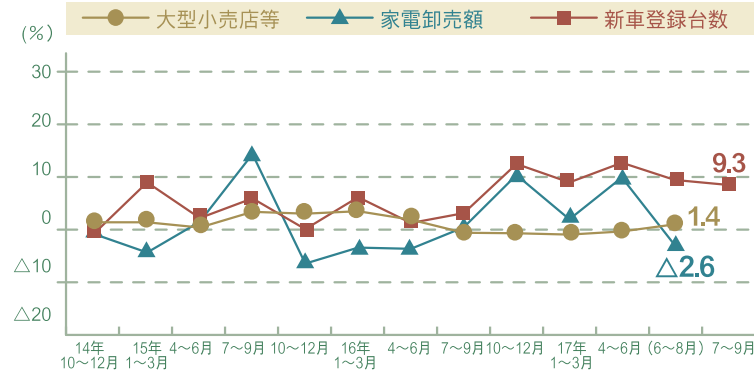
企業収益

経常利益を前年同期比で見ると、十七年度上期は、製造業で「減益」とみているものの、非製造業で「増益」とみていることから、全産業では一〇・八％の「増益」見込みとなっている。
十七年度下期は、非製造業で「増益」とみているものの、製造業で「減益」とみていることから、全産業では五・〇％の「減益」見通しとなっている。
十七年度通期は、製造業で「減益」とみているものの、非製造業で「増益」とみていることから、全産業では三・四％の「増益」見通しとなっている。

企業の景況感

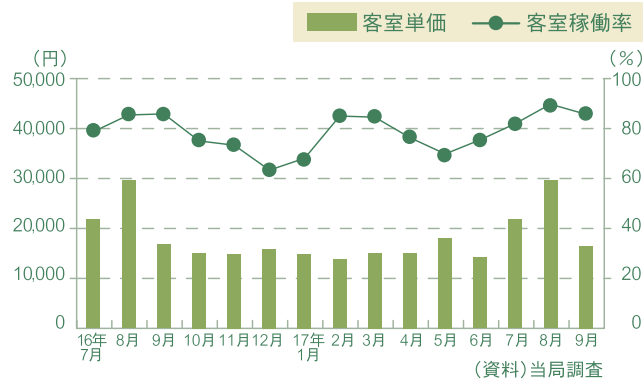
十七年七〜九月期の貴社の景況判断BSIをみると、製造業は「下降」超に転じているものの、非製造業は「上昇」超に転じていることから、全産業では「下降」超幅が縮小している。

●大型小売店等販売額、家電卸売額、新車登録台数(前年比)

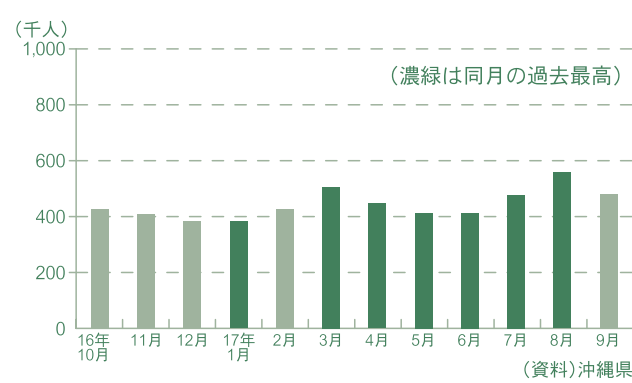


車が好調に推移したことや小型乗用車の新型投入効果により前年を上回っている。中古車販売は前年を上回っている。
このように、個人消費は順調に推移している。

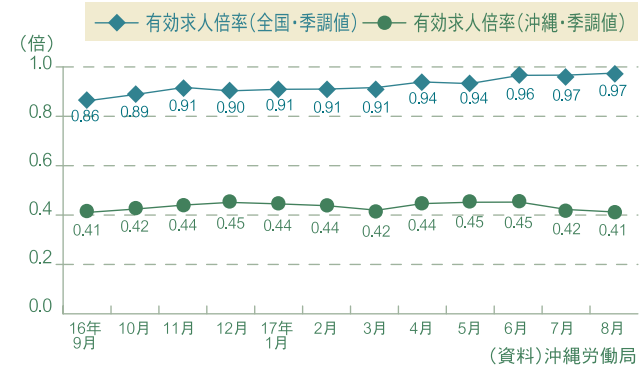
●主要ホテルの客室稼働率、客室単価



●観光入込客数



●有効求人倍率



●新規求人数、県外からの受求人数(前年比)

